

初めて小児保健実習を担当して

特別支援教育講座 長尾秀夫

1. 授業の概観

授業「小児保健実習」は保育士資格の取得を希望する学生を対象とする科目である。新しく設けられたコースで、今年度は保育士養成コースの初年度である。

この授業は保育士養成コースのB群：必修科目の保健の対象の理解に関する科目で、小児保健の3科目の中の1科目である。時間割上からは他の小児保健2科目が終わった後であるので、基礎知識を理解していることとなっていた。

また、この授業は学生と教員の授業時間の重複を避けることもあり、集中講義で行った。

授業の目的は、「小児の身体的、精神的健康について理解し、その上に立って保健活動の意義を認識する。また、保健活動は保育所などに限定されず、家庭や地域と連携して取り組むことの重要性を理解する。これらのことを実習を通して習得する。」ことである。

授業の到達目標は、「①(DP1・2)小児の保健活動について実習を基に述べるができる。②(DP3・4)小児の疾病や事故に対して、模擬体験場面で適切に対応できる。③(DP5)家庭や地域と連携した小児の保健活動について調査し、具体的に深める。」ことである。

授業の概要は、「小児の成長発達について理解し、出会うことの多い病気や事故について理解する。その上で、保育現場の情報を調査し、具体的な対応について知る。また、地域と連携した保健活動を見学して、小児の保健活動の重要性を理解する。」ことである。

この目的・目標を達成するために、授業スケジュールを立てた。第1回は小児保健の授業の概要を説明する。第2回は小児の健康な身体的成長について。第3回は小児の健康な精神的発達について。第4-7回は小児の身体的疾病についての実習、第8-11回は小児の精神的疾病・問題についての実習、第12-14回は小児保健の現状についての実習、第15回は試験と問題の解説とした。

時間外学習については授業中に必要と考えた課題について、自宅でインターネット等で調べて、授業中に報告することとした。

平成22年度後期に実際に行った授業を受講した学生は2回生4名であった。それぞれに熱心に取り組み、授業への参加は良好であった。

授業を行うに当たって、いままでの学びについて学生全員に質問し、学んだことを確認した。その上で、今学生が学びたいことの希望をとった。小児保健については、私が考えていた内容はあまり授業がなかったようなので、3冊の本を持参して、どれに準じた内容にするかを相談した。その結果、「小児保健実習ノート」が選ばれた。

全体はかなり膨大であるので、10章中から学生が1人1章の興味ある部分を選び、そこを中心として自己学習することとした。そして、他の部分は重要なところを抜粋して、教員が解説した。

学生が選んだ章は、
第6章 よく起こる事故について知ろう
第7章 いざというときの応急処置について知ろう
第8章 慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について知ろう
第9章 子どもの生活習慣について考えてみよう
の4章であった。

これらの章については、参考文献を印刷したり、インターネットの適切な部分を紹介するなど担当学生が中心となって発表し、教員はそれに追加説明をした。また、できるだけ実技的な内容を盛り込み、自分の身体で体感しながらの学習を試みた。

授業1日目は4コマ行った。そこでは、まず、テキストの輪読を行い、読んだ者がポイントを要約した。そして、子どもの事故について、死亡統計上の特徴やその原因について、文献や教員の経験を重ねて紹介した。その後、章末課題について話し合い、まとめテストを行った。

次に、第1章の子どもの発育について知ろう、のポイントを概説した。そこでは胎児期の発育についてビデオを見せて、具体的理解を促した。その後、極低出生体重児、超低出生体重児の現状を話して、24週で生まれたとき、1200gで生まれたときなどの発育を調べる実習をした

授業2日目は6コマを行った。終日で大変であったが、学生は熱心に取り組んだ。

最初は第7章の応急処置をテーマで、担当学生が自宅学習で調べたことを発表した。その後、ま

とめのために、テキストを輪読し、教員は追加説明を行った。特に救急のABC、初期対応の方法は興味があったようで、自ら身体を動かして理解しようとしていた。また、傷病時の応急処置は詳しく調べてきており、みんなにとって役立つものとなった。熱中症や誤嚥は話題が盛り上がり、誤嚥しにくい食べ物を探し、試食を行った。

第8章は慢性疾患や障害をもつ子どもの保育について学習した。そこでは、学生がアレルギーについて詳しく調べてきた。それに追加して、教員から最近では学校生活指導管理表があることを紹介して、その内容と使い方を説明した。それと共に、命にかかわる病気である先天性心疾患についても、調べてくることを課題と出していたので、担当学生はそれについても発表した。教員はそれについても学校生活指導管理表をコピーして配布し、その成り立ちや使い方を説明した。

その後の時間は、第2章の子どもの発達、健康状態について解説した。その中で、発達の見方の手技のポイントやチェック方法、それでわかる病気について例示した。また、健康な子どもと大人の違い、病気の場合について比較して、解説を試みた。

3日目は5コマの授業と最後は授業評価とテストを行った。

第9章は子どもの生活習慣について学生が調べて発表した。それを基に、テキストを輪読した。教員は小児保健での話題として、「早寝、早起き、朝ご飯」「メタボリック症候群」などの話題を解説した。そして、それぞれの問題点の見方、対処方法を解説した。メタボについては、例題を作って計算した。

最後の時間には、今までの章末テストの答えを確認し、理解と記憶の復習をした。そして、まとめテストを実施した。

2. 授業評価法

授業評価には、学生の評価は無記名で満足度評価を5ポイント制で行った。教員の到達度評価はテスト、時間外学習、発表・討論への参加で行った。

3. 授業評価結果

学生の授業評価について、下記の得点をつけた。

⑤そう思う④ややそう思う③どちらともいえない②あまりそう思わない①そう思わない、の5段階である。

得点が高い場合に評価が高いものに統一した。アンケートは以下の設問を1枚の用紙として配布した。以下、設問と得点、その人数を示す。

なお全員で4人である。

<授業評価アンケート>

- 問1. 教員の話し方はわかりやすかった (⑤4)
- 問2. 授業の展開・構成はよかった (⑤2、④2)
- 問3. 授業の内容・レベルは自分にとって適当であった (⑤2、④2)
- 問4. この授業で新しい知識・概念が身についた (⑤4)
- 問5. プリント等の教材が適当に使用された (⑤2、④2)
- 問6. グループ討論は意見交換に有効であった (⑤1、④3)
- 問7. 単元の分担は知識の整理に役立った (⑤3、④1)
- 問8. 単元を自分達で発表したことはよかった (⑤3、④1)
- 問9. 授業は教育支援に役立つ内容であった (⑤4)
- 問10. 授業は自分にとって満足ゆくものであった (⑤3、④1)

以上が学生の評価結果である。授業内容が明確であったこと、自分の分担を調べてきて発表できたこと、必要に応じて教員が具体的に説明したこと、自分達で興味ある単元を選択したことなどを自由記述欄で評価していた。

教員の学生の到達目標は最終テストで行ったが、4人ともが90点台から100点であり、十分に目標は達成できていた。自発的な発言や、自己学習の深さにおいて、まだ学生には力があると考え、成績評価には若干の差をつけた。

4. まとめ

初めての授業「小児保健実習」であったが、学生が熱心なこと、少人数で一人ひとりの学生に合う余裕があったことで、学生の評価も高くなった。また、学生の到達段階も集中講義の3日間にしては高いレベルを確保できた。

大学の授業においても、学生の興味関心に寄り添い、選択の機会や自主的な学習機会を設けることは有意義であることが明らかとなった。

来年度は受講学生が増える予定と学生から聞いた。その場合は、またやり方に工夫をする必要を感じている。来年度も学生達からの提案を大切にしながら、受講生にとって有意義な授業を試みたいと考えている。